平成 25 年度　第 3 回帯広市学校給食共同調理場運営委員会　議事概要

日　時　　平成 26 年 2 月 25 日（火）10：00～12：30
場　所　　帯広市学校給食共同調理場 会議室
出席者　【委　員】濱口委員・井上委員・鈴木委員・瀬尾委員・保前委員・立川委員
　　　　　　　　　川田委員・秋元委員
　　　　【事務局】須貝学校教育部長・井上場長・和田建設担当企画監・村木建設主幹・
　　　　　　　　　石田副主幹・山本栄養士

１．開　会

２．学校教育部長挨拶

本日の運営委員会は、平成２６年度の新調理場建設を含めた予算の概要について審議していただきたい。また、小委員会では前回十分な時間が確保出来なかったため、引き続き物資小委員会では「地元業者等と連携した取り組み」献立小委員会では「新メニューの取り組み」について議論していただきたい。

新調理場の建設現場を見学してきたが、かなり骨組みも出来上がり、今年１１月の完成に向け着々と進んでいる。

今後、わが国を代表する食料生産地である帯広・十勝の地域特性を生かし、帯広らしい学校給食調理場を作っていきたいと考えている。

３．議事

（１）平成 26 年度予算の概要について

（事務局からの説明要旨）

平成 26 年度の予算の概要について説明する。①学校給食共同調理場管理運営業務費、②給食業務費、③食育推進業務費、④学校給食調理場建設費の 4 つの事業で構成され、歳入の合計は 8 億 4397 万 8 千円、歳出の合計は 13 億 5252 万 2 千円、うち一般財源は 5 億 854 万 4 千円となる。

（委員からの主な意見・質疑）

特になし

（２）その他

（事務局からの説明要旨）

①学校給食新キャラクター及び愛称の決定について

昨年 8 月に市内小中学校の児童生徒を対象に募集し、618 点の応募があった。

その中から選考委員会において７点を選考し、児童生徒による投票を行った。その結果、最も投票数の多かった「緑園中学校２年　安藤美羽」さんのキャラクターを新キャラクターに決定。愛称は「花園小学校６年　平塚あいり」さん「啓北小学校１年　三佐川まどか」さんの「オビリー」に決定した。

②札幌パリ帯広工場火災に伴う給食用パンの供給について

帯広市内の全小学校へパンを供給している、札幌パリ帯広工場で昨年の 11 月 30 日午前１時 30 分頃火災が発生し、中学校へ供給している林製パンに対応について相談したが、施設・容器等の問題があり、林製パンでは難しいことから、林製パンの林社長が北海道パン・米飯組合の副理事長をしている関係から旭川のデンマルクを紹介してもらい、最終的にデンマルクにパン製造をしてもらうこととなった。

製造したパンは、前日に帯広に配送してもらい、仕分け・当日の各学校への配送については札幌パリに行なってもらっている。

③建設中の新学校給食調理場の工事の進捗状況について

・現場の写真をモニターに映し、説明。

（委員からの主な意見・質疑）

【委　員】太陽給湯システムでは、お湯はどれくらいまかなえるのか。
【事務局】概ね３分の１程度と考えている。
【委　員】新キャラクターは、ゆるキャラにはしないのか。
【事務局】原画は足が上がっているが、ゆるキャラにも出来るように、足はデザイン変更した。
【委　員】来年度のパン製造は、地元で対応できるのか。
【事務局】地元のパン屋と協議している。
【委　員】この事故の前に、事故を想定した準備はしていたのか。
【事務局】事故の想定はしていない。小学校は札幌パリ、中学校は林製パンに任すことしか考えていなかった。帯広市内で代わりをお願いするのは難しい。市内で難しければ全道で対応することを検討していきたい。
【委　員】想定外であっても、大地震等の災害の時は、全道から応援してもらえない事態もあるので、その辺も含めて検討してほしい。
【事務局】災害の時は、関係部とも連携する必要がある。
【委　員】調理場の隣に設置されている太陽パネルと調理場の関係は。
【事務局】調理場の隣に設置されている太陽パネルは環境都市推進課で土地を貸して民間企業が発電施設を整備しており、調理場と関係はない。調理場は２階屋上部分に太陽光パネル、１階屋上部分に太陽熱パネルを載せる。
【委　員】太陽熱給湯はどの程度お湯を賄えるのか。
【事務局】給湯で使用する都市ガスの３分の１程度が節約できると考えている

【委　員】テスト調理で運営委員会の試食を考えているのか。
【事務局】1 食分がそろった形での試食とはならないが、検討する。

４．小委員会審議

（給食物資小委員会の意見）

【事務局】今年度は、冷凍加工品、野菜、麺、米飯、パンについて、地元食材調達の可能性を広げるため企業等との協議を行なってきた。
今後は、給食への供給条件などについて、具体的に説明会や商談会の実施などを通して、さらに検討・協議をすすめていきたい。

【委　員】企業はリスクを避けたいとの考え方があり、なかなか学校給食への供給が広がらない。企業側においてもリスクを解決するための給食以外の販路まで視野に入れた検討をするなど意識改革が必要。

【委　員】給食は供給する量が多いことが企業側にとって課題となっている。

【委　員】十勝では、チーズ製造業者が共同で製造技術向上をめざしており、給食への供給をきっかけとして、販路を広げていくことも考えられる。
十勝全体の食品加工業の商品供給能力の情報ストックが必要。
農業については、作付け計画の段階で給食の需要との調整をしなければ間に合わない。また、新規作物についても給食からのニーズを伝えていくことが必要。
鹿追町では、バイオガスの余熱を利用したサツマイモの栽培に取り組んでいる。こうした取り組みを食材に活用することで、子どもの食を通した環境教育にもつながる。

【委　員】全量は無理でも、学校単位で、地域にあるパン屋に対して、見通しをもった需要を示して調達することができないか。パン屋との協議の内容を教えてほしい。

【事務局】学校給食への供給にあたっては、製品保管スペースなどの点で、一般小売を行なう経営形態とは大きく異なるなどの課題がある。

【委　員】煮込みラーメンは、好きな子と嫌いな子の両方の意見がある。今後、個包装とするのか。また、子どもの安全を確保するため、アレルゲンとなる蕎麦と製造ラインの分離は必要。

【事務局】麺は汁と別の食缶で提供することを考えており、これまで個包装での麺の提供を検討してきているが、麺がくっつかない工夫ができれば、個包装ではなくても提供できる可能性もある。今後もテストしながら、良い方法を検討していく。

【委　員】衛生管理の点では、道ＨＡＣＣＰへの対応など、地域の食品加工業者も取り組みは進んできている。衛生管理を向上させるためには設備投資が必要であり、公共の支援策はあるものの額に限りがあるため充分に対応できない課題がある

ようである。

【委　員】金融機関からの資金支援の方法もあるが、長期的な展望が見えないことなどからリスクを感じており、手を挙げる企業がなかなか出てこない。企業側は、学校給食への供給をきっかけとして、幅広く市場に展開していくことを考える必要がある。

学校給食からアイテムなどのニーズを示して説明会を行なうなど仕掛けが必要。

単年度契約でなく長期的な契約スパンができれば、企業は対応しやすく、コストダウンにもつながる。

【委　員】企業にとっては、先の見通しが立てば乗りやすい。

（給食献立小委員会の意見）

【事務局】前回に引き続き新メニューの取り組みについて議論をお願いしたい。

【委　員】新メニューの評判はどうか。見た感じはあまり変わらないような気がする。

【事務局】例えば、子どもは、シチューは好きだが、マッシュルームや豆が苦手だったりするので、評価は難しい。また、基本的にはこれまでの献立の味付けをベースとして、新たな地元食材を使ったメニューを提供している。

【委　員】新メニューの時は時間通りにできるのか。

【事務局】最初は遅れがちになるが、コース別にひと月に３回同じメニューを出すので、次第にスムーズな調理が出来るようになってくる。

【委　員】12 月の長芋のお好み焼きはどのように出したのか。鮭のシチューは食べたのか。

【事務局】お好み焼きは、スチームコンベクションオーブンの天板に流して、焼きあがった物を切って出している。シチューは、鮭はそのまま出すよりは食べていたようだが、魚自体があまり好まれていないと思う。

【委　員】白飯は多く残っているように思う。子どもは、若布ご飯、混ぜご飯は好きだと思う。

【委　員】給食時間に影響が出るのであれば、掃除時間を変更した方が良いのではないか。衛生的にも良くないと思う。

【委　員】以前、調理委託の話が出ていたが、なくなったのか。

【事務局】食育等を進めるためにも直営で運営していく。

【委　員】委託は利益を追求されるのでやるべきではない。

【委　員】新調理場でのアレルギーの対応は。

【事務局】乳と卵の除去食を考えている。

【委　員】新調理場での調理員は専門職を配置するべきだ。

【事務局】新調理場では正規職員はその部署ごとに責任を持って仕事にあたる。経験のない新人が配置になることは無い。

５．その他（全体を通して）

【委　員】掲示用の給食だよりの字が小さいのでもっと大きくできないか。

【事務局】検討したい。

【委　員】嗜好アンケートの内容が小学 1 年生では時間がかかるので、内容の検討をしてほしい。

【事務局】子どもたちの多くの意見を聞くために設問が多くなってしまったが、選択方式とした。

【委　員】学校閉鎖・学級閉鎖の時の学校給食の対応について聞きたい。学校行事のため給食の必要がない学年があり、同じ日にインフルエンザにより他の学年も閉鎖となり、結果的に全校児童は給食を必要としなくなったが、教職員は勤務している。このような場合、勤務している教職員への学校給食の提供について、どのような対応をとるのか。

【部　長】緊急の場合については、状況に応じた対応をしていきたい。